

10/4(金)懇話会[サロン形式]にての講演会開催報告(内容抜粋)

演 題 : 「東北のインバウンド及び受入態勢の現況」
講 師 : (一社) 東北観光推進機構 地域戦略部長 佐藤一彦氏

1. イントロダクション

(1) 東北観光推進機構について

人数 : 30 名、構成 : プロパー2 名、各自治体及び各社からの出向

【これまでの主な成果】

① 台湾における東北PRイベント「日本東北遊楽日」の継続実施

2014 年から毎年 12 月に台北で開催、2016 年以降毎年来場者が 10 万人を集めるイベントに成長した。→台湾から「観光貢献賞」を受賞

② 海外有力メディアの掲載

コロナ禍前の 2019 年には、旅行ガイドブック「ロンリープラネット」や「ナショナルジオグラフィック」に東北が掲載された。また、2023 年にはニューヨークタイムズで盛岡市が選出され、インバウンド増加のきっかけとなった。



(2) 2025 年度上期の実施事業の紹介

① 大阪・関西万博における東北プロモーション事業

万博会場内 EXPO アリーナ「Matsuri」にて、「東北 四季の彩り&東北絆まつり」を 2025 年 6 月 13 日(金)～15 日(日)に開催いたしました。3 日間で 5 万 4 千人が来場し、東北への誘客を促進する機会となりました。

2. 東北のインバウンドの状況について

(1) 東北の外国人宿泊者数の現況

① 2024 年度までの推移

・コロナ禍後順調に回復し、2024 年は東北 6 県で 208 万人泊(2019 年比 124%)を達成した。[コロナ前の 2019 年は 168 万人]

② 2025 年度の推移

・ 7 月累計の東北全体の対前年伸率は 127.9%と全国の 117.6%を超えており、徐々に全国の伸びに追いついている
・ 訪日国の構成比はコロナ禍前と大きな変化はなし

(2) 東北への航空便の就航状況

・ 仙台空港の就航便数は、2019 年週 56 便→2025 年夏季ダイヤ 58 便と回復
・ 中国路線は座席数減少しているが、旅客数は増加
・ 構成としては、FIT80~90%、団体 20~10%と個人旅行型の傾向が顕著
・ 12 月からバンコク路線復活エアアジア X 週 4 日(月・水・金・日)
機材は A330 で席数 335 席、現在、片道@19,990 円～

【国内宿泊者数の推移】

・ 2024 年で 2019 年比 91.3%、3,017 万人泊にとどまる。人口減少が影響大
・ 国内宿泊は月別でも 2019 年の上回る月はなし
・ 外国人と日本人を積算した宿泊数は、日本全体ではコロナ前を越えているが、東北はまだ未達。インバウンドの伸びも少ないが、国内宿泊者数の減少が大きく影響。

3. 東北観光DMPについて

- (1) 東北観光DMPの紹介
 スマホのGPSデータにより、空港の訪問数等の分析が可能なツール
全体の37.1%が仙台空港利用、東北の76.4%が仙台空港利用
- (2) 動態分析の概要紹介
仙台空港からの訪問箇所は2019年39箇所→2024年96箇所に増加
個人旅行の増加に伴い、広域にわたって観光している様子が伺える



4. 受入態勢の現況について

- (1) 受入態勢に係る東北観光推進機構の取組紹介

① 連泊滞在促進 ～Base! TOHOKU

東北を連泊により滞在型で楽しんでもらいたい
 旅行形態も連泊型でゆっくり回る形態が増加傾向

② 滞在周遊促進 東北ドライブルート

東北に滞在して広域に楽しんでもらうための手段としてレンタカーは有用
 訪日客のレンタカー貸出実績は年々増加傾向、貸出場所は宮城と青森が多い

③ 滞在促進 高付加価値コンテンツ造成事業

滞在を楽しんでもらうためには、コンテンツが重要。消費を増やすためにも高付加価値なコンテンツを発掘している。仙台空港発着へり旅や大曲の花火体験等販売実績も出てきている

④ 人材育成 ガイド育成事業

新たなプレイヤーの出現
 滞在して楽しんでもらうためには多言語案内のできるガイド育成が欠かせない
 東観推の取組がジャパン・ツーリズム・アワード2025に入賞

⑤ 新規市場 アドベンチャー・トラベルの取組

新たなプレイヤーの出現
 アドベンチャー・トラベルは東北の有する自然の体験や歴史・文化と相性が良い
 アドベンチャー・ウィーク2025の開催を経て手ごたえを感じている

⑥ 新規市場 欧米マーケットへのプロモーション

東北に興味を持ってくれる欧米市場からの誘客はこれから注力すべき
 旅行会社トップと自治体トップの会談等、新たな取組に着手した

⑦ 人材育成 フェニックス塾

若手人材の育成やネットワーク構築を目的として10年間継続実施
 これまで349名の塾生を輩出してきた

- (2) 東北域内のDMOの現状

① 域内DMOの状況 54法人

様々な経緯を持っており、東北でも多様なプレイヤーが出現してきている

② DMOの認定要件の変更、ガイドラインの見直し

- ・広域連携DMO、都道府県DMO、地域DMOの3種類に
- ・DMOとしての観光ビジョンや計画の策定
- ・KPIの追加

一人当たり旅行消費額、来訪者満足度、住民満足度、観光事業者の平均給与、等
難しい条件もあり DMO 認定を見送る DMO も出ると予測している

5. まとめ～エンディング

☆これからの東北観光の可能性

- ・東北の有する「気候」「自然」「文化」「食」などの多様性は今後さらに評価される可能性を持っている
- ・新しいプレイヤーも含め、これまで以上に様々なプレイヤーが連携していくことが非常に重要になってくる